



騒々と想像する学校を 訪ねる折りに君と闘う

星の旅時間忘れる忘れるか そうではなくて目を閉じるとき

ガム口に甘さ頭に蜜が血に すると鳥さえTレックス

アイルランドの裏付けのなき国の身そ あはれそれでも扉開けり

KeisukeKinoshita まるで **MilesDavis** 弟子取り育ていっちょ前に

激しかり雨 粒の形を聞き分けて 動く男ここにあり

皇后と語る空から間抜く 雲雀鋭く批難すなり

彼の言う ポルシェの魂 栄えれば 怯まぬエンジン 酸素飛ぶ

魚食べ水に触れば変身す 濡れた肌が身を包む

フィルムに色つける技見出せり 戦火の煙人々見む

現場こそ極めり舞台唯一の 針の音さえ遠慮する組

おしろいが踏み込めばそこ一面は 夢が重なる魔法のエリア

色をつける光を操るその人は 物語作りに命をかけるなり

今でこそ真ん中にあるしかしても 異端の動物生き残る

萌えつきた羽衣裾を擦らせつつ 散りばめる白い心意気

まな板のサウンド走る台所 キッチンとできる生姜漬けかな

さあ転ぶ嵐にまみれた**Rimbau**は ユーラシアから夢を運んで

カルシウム正しい位置で凝固せり ただ見る測る観察すればそ

男の声響ければ交われり 女の声は発展せりり

両手にぞカバンカバンで麗しげ 早速中身を忘れ物

腕組みが右と左で差し違い 意味があるのかないのか不明

草枕飛来す姿羽田より モノレールにておはようさん

スマートフォンぶるぶる震える机かな いとしい君は祖国にあり

名づければチーム仲間と定義する 今日のチームは明日の他人よ

冷たく響く足音神経にぞ 醒める意識の続く限りは

手紙着く開けばそこに満ち足りた 豊かなそして柔らかな肌あり

視線浴び罵声浴びなら体ごと 回してくれよ体割れるまで

その人は女友だちだったはず 今は手術で男友だち

保守派年功序列破壊せり 代わりに捨てる伝統なり

海の名を定めた君を想う 戦慄の技**diplomacy**なり

砲弾を砲塔の格納弾こめつ 破壊の的は我が妹の郷

人が為す戦いの環境紛れなく しかし誰もが拒絶せりなり

思い描く空と海こそ陸を守る 新時代は更に心を攻めよと

越えられる夢を維持する魂を 経理が支えずゆえに越えられず

你好から糸を垂れしはテキストを 的する辺りを探りなりけり

テクノロジー使いこなせり我が息よ たくましなるぞ注意せよとぞ

単語さえ数で勝負を挑めけり 時間が経つなれ縋る術なし

聞かないで心底惚れる身内なれ 次の瞬間忘れけり

なぜと問うitの使い道なれど 聞かぬべきあり聞かずすませよ

学校生活の煩わしさよしかしそこ 友だちらと心を育てむ

創造す音を出すには必要ぞ 武器とも例えるエレクトリックギター

兄妹で父がたくさんいる時も 見つめ合いつつ手を握りけり

新しい才能あれば嫉妬あり 競走と発展は背中あわせとぞ

神が選び民がささえる君だから オールユニーードは愛

加算するノートの数で小節が 読むより早く空気を揺らす

ここでこの音を選びし心には 何も要らない口を挟まず

両の手を交互にゆらすかすみ雲 リズム多き日の陽呼ぶ

術ならず全てを止すベックこそ 神が下した宝なりけり

歪まず緩まず音響きわたる コントロールできるテクノロジーなり

駅の声事故でダイヤ乱れると 揺れる人並み怒る旅人

サッカーをする作家彼なれど 蹴りし球すら見捨てたりけり

耳たぶのピアス光りて揺れる時 さながら夢を見る部屋

韓国から来れり君はまるでその 百万年も居るに似たりて

持て余す時間と空気ペットボトルよ 共に添えられチョコとせんべいぞ

時節の便り作りて一汗かけり 届く手元に毒を刺すなり

ゾディアック12年でひとまわる 次に来るとき成長を望む

冬の光冴え渡る地球の上 金星への旅忘れるなかれ

愛がある愛を求むその両手 どうしても欲しい独楽廻しと

携帯から音楽流れ聴こえれば 弥栄なりと繁栄あれ

海の力土地の神すら耐えりぬる 何故今時来襲ありや

縦に流れ一挙に集う力とぞ 等しきそれらを迎える岸壁

空を舞う彼らの気配感じず さし挟む隙なし自然の猛威ぞ

道とは何人が行き交うその道を 物資すら拒む瓦礫で

顔の中真ん中にこそありる眼 明日を見てこそ真の眼ぞ